

#### 「できることから生き生きと!!」

今回のりぼんでは、正田地区で男性料理教室などさまざまな活動を通して会員相 互の交流をされている「正田がんこじいさんの会」の杉本智人さん、田口和男さん、 西尾宗明さん、福田博美さんの4名と、子どものお弁当を作るなど、積極的に子育 てを行っている男性(イクメン)として、哲多町矢戸の羽場昭正さんにインタビュ ーを行いました。





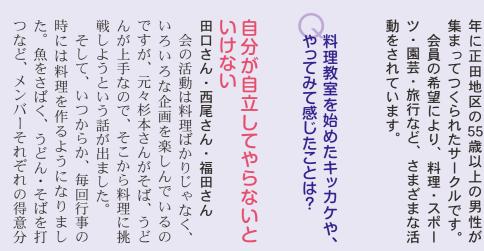
正田がんこじいさんの会のみなさん

生きと楽しく過ごそう」と、

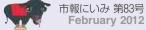
平 成 18

第二の人生を地域の仲間と生き

正田がんこじいさんの会とは







3号 18

ため、この会で活動しています。 仲間と楽しく、生き生きと過ごす	て。 ば打ち以外の料理も何でもやりま 若い頃からそば打ちが得意で、そ <b>杉本さん</b>	ばできると思います。 りと思っています。男性でも、やれして 料理なども やらないといけな	高齢化社会になって、もし女房が田口さん	ППП ТПП ТПП ТППП ТППП ТППППП ТППППППППП		よれしうでか	一人暮らしでも下自由しなくて組んでいます。野があるので、分担して料理に取り
前本報告	έ <i>h</i>	のから始めれば良いと思います。らないとわかりませんが、簡単なもは、独居になるなど、その立場にな自分で料理を作ることの必要性	西尾さん	要は手間がかかることをしているので、片付けも大変とは感じていないです。 ないです。	料理は若い頃からしているし、料ました…。	料理の後片付けが大変だと感じ田口さん	妻の苦労がわかった
自営業で料いこはいてしたが、 理は妻が作ってくれていました。		現役時代の家事については?	も大好評です。 田口さん	上手いと思っています。 酒のつまみは自分で作ります。そ	福田さん	女性より上手い料理も	家庭でも料理をしています
す。 ましたし 今もそこたと思っていま 19 市報にいみ 第83号 February 2012	12 12 2 11	わなくても、お互いにカバーしないしょうか?ことさらに協力とか言 男女共同参画の主体は何なので	っていた	私たちは古い世代だから料について家庭や職場での男女共同参画	則で料理はしていなかったです。 共働きでしたが、勤務時間が不規 田口さん	は仕事で精一杯でした。 母親と妻がしてくれました。 自分 <b>杉本さん</b>	がしていました。

日博美 さん	も出かける。 も出かける。	すん少 ふくんさ	をで次くことなく、次反器でスイソ で飯を炊くのに、竈に薪をくべて 現代は昔(自分達が若い頃)と比 明代は昔(自分達が若い頃)と比 田さん 西さん
さな会社だと他の人に迷惑がかかるのは、大きな会社なら別でも、小るのも事実です。 るのは、大きな会社なら別でも、小るのも事実です。	<b>甲口さん</b> JRで運転士をやっていました できない仕事でした。 のは(石炭も使わなくなり、力仕	もあると思います。 もあると思います。	

最後にひとことお願いします

# 60歳からが自分の人生

秘訣だと思います。 西尾さん 多くの人と付き合うこと。一人に

#### 福田さん

に)入ってきてくれればいいですね。 んこじいさんの会」のような活動若い人(60歳代)がどんどん(「が

### 杉本さん

よう。 仲間を増やして楽しくやりまし

## 田口さん

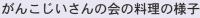
囲気の会に参加して愉快に過ごし 雰囲気が大切、笑うことが大切です。 ば相当差がつくと思います。楽しい まってしまう人とは10年、20年すれ ましょう。60歳を過ぎればそこで止 続けられます。 60歳からが自分の人生。楽しい雰 一緒に活動できる仲間がいるか

1111

思います。

5









新見市男女共同参画情報紙

め・食事など 一般的に長親(妻)	り組んで子育てをされています。 り組んで子育てを行っていま すか? 子どもが生まれたときから、おし 子どもが生まれたときから、おし	事や農作業にも子どもと一緒に取すなまっし、また、神楽など地域の行だいた羽場さんは、お弁当作りだけ積極的に行う男性のことです。	イクメン」へのインタビュー
お弁当を作るときは、子どもが苦ちた、保育園で、お父さんの手作しいですね。 と何より嬉しいですね。 を何より嬉しいですね。 です。	子どもたちがお弁当を必要とす るからです。 子どもたちが、お父さんに作って 欲しいと言えば、作るようにしてい ます。 お弁当づくりをやっていて感じ たことは? 作ったものを全部食べてく れると何より嬉しい	お弁当づくりを始めたキッカケ は? 子どもたちに必要とされる から	ですいます。 初場昭正さん
わず 農作業で家事 イベントへも いです。	して学びました。 う。褒めることは らんとあいさつを でも がきちんと出 して学びました。 して学びました。 して学びました。 でいと思っていま	とが、一番大切だと教えています。 そして、子どもたちには、「何事に すことが大切だと思っています。 すことが大切だと思っています。 子どもに何かをさせるときは、ま	「 「 「 「 「 「 に も 感謝の気持ちを は ? に も 感謝の気持ちを し る こと
ま交椅にも心からエールを贈りたい と思いました。 りぼん第12号(市報第77号へ掲載) が必要だと再認識しました。 イクメンの羽場さんは見事にク りぼん第12号(市報第77号へ掲載) が必要だと再認識しました。 イクメンでした。	お父様こも心からエールを増りていた。 そのように関わってきた羽場さんの にイクメン」へのインタビューでは、 「の歳から人生が始まる」、うーん 見い言葉です。 「イクメン」へのインタビューでは、 「の歳から人生が始まる」、うーん なのように関わってきた羽場さんが輝い たのように関わってきた羽場さんが輝い たのように関わってきた羽場さんの	され、多くの人と関わり、会話や作りたいう感じを受けました。して周りと楽しく和気藹々と過ごそのという感じを受けました。これまでの人生経験の中で、世代じられました。	会を運営していることがまぶしく感お互いを尊重しながら、助け合っては、自分のできることを提供し合い、「がんこじいさんの会」のみなさん
新編集委 21 市報にいみ 第83号 February 2012	後員紹介 委員長:小川政保 副委 編集委員:川本太問、清水 山本静香、上田	員長:川上幸江 里香、双道昌子、谷岡奈央、 奈津美、岡本博巳	前田 実、